* * * *

マメ科マメ亜科インゲンマメ連の *Shuteria ferruginea* (Benth.) Baker はヤブマメ属の植物で，*Amphicarpaea ferruginea* Benth. が正しいと結論した。

□Green, J.C., B.S.C. Leadbeater & W.L. Diver (ed.): **The Chromophyte algae.** Problems and perspectives. i-xii, 429 pp. 1989. Oxford Univ. Press. ¥22,800. 1988年4月に英国のプリマス臨海研究所で行われた Chromophyta の分類と系統に関する研究集会の講演集である。Chromophyta とは光合成色素としてクロロフィルaとcをもつ植物及びその近縁植物に与えられた名称で，渦鞭毛藻，クリプト藻，ハプト藻，ラフィド藻，真眼点藻，黄緑藻，黄金色藻，珪藻及び褐藻を含み，日本では黄色植物門または有色植物門，あるいは褐色植物門などと訳される。この植物群の主たる生息域は水界で，海にも淡水にも生育する。褐藻のように100m近くも大きくなる仲間もあるが，多くは単細胞または群体でプランクトン生活をする。有機物の生産者として水界の生態系において重要な位置を占めるが，また大発生をして赤潮をつくるもの，貝毒や魚毒の原因種となるもの，CO_2 を $CaCO_3$ にかえて沈着させるものなどがある。

近年，培養技術，電子顕微鏡技術及び DAN や RNA 解析の技術などの発達により黄色植物群内の類縁関係の解明が進み，同時に黄色植物と菌類の卵菌類とササゲツボカビ類，さらには動物性鞭毛虫太陽虫類（Heliozoa）などとの近縁性が明らかになってきた。本書に収録の21編の論文はこれらの研究の現状を紹介している。幾つかの題名を以下に記す。黄色植物門の分類—過去と現在，クロロフィルcとその分布，カロテノイドの分布と分類・系統との関係，黄緑体の構造からみた類縁関係，葉緑体 DNA 解析による系統関係の解明，鞭毛基部構造と系統，遊走細胞の微細構造から見た褐藻の進化系列，珪藻の生活環と起源の問題，卵菌と黄色植物の類縁。鞭毛装置構造から見た卵菌とササゲツボカビ類，太陽虫類と黄色植物の関係，Chromista 界について。この分野の今後の急速な進展が予想される。（千原光雄）

□Klucking, E. P.: **Leaf venation patterns, vol. 4 Melastomataceae** 283 pp., 118 pls. 1989. J. Cramer, Berlin. DM 260. このシリーズは既に Annonaceae, Lauraceae, Myrtaceae が出版されている。記述は，各属についてすすめられ，venation のタイプ分け，葉の形態及び venation の詳しい記載，調べた種及び標本のリスト，コメントの順になっている。後半は，venation を浮き立たせるために透明化した葉の写真が Plate としてまとめられている。Plate のなかにはやや不鮮明なものもあるが科内の venation の diversity が一目でわかって，みているだけで楽しい。この形質から属間の類縁関係を探る手掛かりを見つけだせればもっと楽しくなると思う。（寺林 進）